

(普及所だより)

SAP運動

I SAPとは、最近、新聞、ラジオ等で、SAPという言葉を見たり聞いたりされると思います。この言葉は、本年4月宮崎県で生れたもので、まだどこにもない全く新しい言葉です。ではこの言葉は、どんな意味をもつてありますか? 「農業繁榮のための修学」の頭文字 SAPを綴ったもので、つまり将来農村を担つた若い農村青少年に、あらゆる機会をもつて勉強していただき、農業近代化の実験体となつて働いていただこう。と云う合言葉です。

II この運動をおこす目的

いま日本の農業は大きな問題をかかえています。その第1は、このままであると、農業所得と他産業の所得との差は、さらに大きくなりそうだということです。その第2は、特に本県の場合、農業所得そのものが、他県のそれより約3割低いと云う事で、ここに二重の問題があるわけです。ところで国は、この解決の方向を農業基本法で示し、農業構造改善事業などの政策を行っています。また本県では、農業の近代化を県政の中心においています。しかし、口ではたやすく云えても実際にはむつかしい仕事です。

1) 機械を使いやさしく土地の条件をととのえる
2) 作るものに商品としての高いねうちを持たせる。
3) 無駄を省いて収益の多い作付体系を考える等、一寸考へても大変な仕事ですが。

だといつておいては、農業の収益を高めることは、層々困難になります。そこで農村の青少年に、明日の新しい農業を築いていただくために、希望と誇りをもつて、実践的な活動と学修を積んでもらおう。と云うのがこの運動をおこした目的です。

III SAP運動のしくみ

① 機能集団の育成SAP組織の第1は、実際にこの運動に参加し、実践的学修を、活動を進めて行く青少年グループを育てることです。これは同じ課題をもつ、10人内外の青少年を1グループとして、みかん同志会、酪農クラブ等はつきり目的をもつたグループをより多く育てSAP運動の推進母体とするものです。

② SAP会議、SAP対策協議会が生まれます。この運動を強力におし進めで行くため、市町村に沢山出来る機能集団があつまつて、市町村SAP会議が、またこれ等の代表者で県SAP会議連合が組織され、さらにSAP会議を指導援助する相談役的な、SAP対策協議会が結成されます。

③ SAP大会を開きます。

機能集団の活躍ぶりをお互いに紹介し、農業近代化のすすめについて話し合い、また技術を、知識を高めるために夏、冬の2回市町村と、県でSAP大会を開き、代表者を全国会におられます。

VI 学修のすすめ方

学修のすすめ方は次の4つの段階です。

◎第1段階は一般学修→各市町村で開かれている青年学級、ラジオ農業学校等で、基本的な勉強を行います。

◎第2段階は部門学修→畜産、果樹など8つのコースで、週1年の間40日の部門別学修が行なわれます。これは10月都城に出来る予定の青年技術館で、県がつくつけるテキストにより行なわれます。

◎第3段階は専門学修→経営、畜産、果樹など8コースがあつて部門学修を受けた青少年が参加し、専門的な深い技術を修得するため開くもので、高鍋町の高等農業研修所で10日間開講します。

◎第4段階は視察と留学→専門学修を修了した青少年は、方面1万円の助成を行ないます。また県外留学は、希望によっては新設されました。これまでの年は31名が予定されています。

V おわりに

以上がSAP運動のあらましの内容です。すでにわかりの通り、SAP運動とは、県か、市町村かが上から圧力をかけない、熱心な農村の青少年により多くあります。農業の勉強の新しい力、協力があり少ないと、援助を行なうとするもので、身体的に、頭に、そして心に、そして育つよう、そして国づくりの新しい技術を、知識を得て出来ます。今後農地を止みません。町づくりは人から、そして国づくりから、といわれます。

⑤ 公的年金(恩給)や旧軍人旧軍属の遺族年金の受給者に対しては、福利厚生年金の支給が止められていたが昭和三十七年十一月一日改正法施行により、公的年金額七万円以下の者につき、福祉老令年金を支給する。

⑥ 旧軍人旧軍属の遺族年金額七万円以下の者につき、年金支給される事になつた。

⑦ 本年4月宮崎県で生れたもので、まだどこにもない全く新しい言葉です。

I

II

III

IV

V

VI

VII

VIII

IX

X

XI

XII

XIII

XIV

XV

XVI

XVII

XVIII

XIX

XX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

